

山鹿市民医療センター経営改善評価委員会  
会議録（要約）

開催日時：平成24年11月21日（水）午後6時

開催場所：山鹿市民医療センター内医療研修センター

出席委員：牛島会長 林委員 山口委員 吉岡委員

欠席委員：上野委員 黒田委員

傍 聴：山鹿市議会福祉厚生委員（藤原委員長 永田委員 藤原委員 吉本委員）

病院（事務局）出席者

：本郷院長、豊永副院長、高木副院長、竹下看護部長、山田副看護部長、荒木事務部長、  
野田総務課長 高山総務課長補佐、永田経理課長、多久経理課財務係長、青木医事課診療支援係長

1. 開会
2. 事業管理者挨拶
3. 会長挨拶
4. 議事
  - (1) 平成23年度山鹿市病院事業会計決算について  
委員承認
  - (2) 平成24年度病院事業の進捗状況について
    - ① 改革プランの進捗状況及び中期経営計画等の説明
    - ② 外来待ち時間・患者満足度調査結果報告  
委員承認

【質疑応答等】（以下事務局説明省略）

- (1) 平成23年度山鹿市病院事業会計決算について
- 会 長 平成17年度以来の黒字でよかった。  
一般会計長期借入金10億円は1億円ずつ返済していくのか。返済方法に問題は無いのか。
- 委 員 約定に基づき返済することとなっているはず。返済方法に問題は無い。
- 事 務 局 平成25年度から10年かけて1億円ずつ返済していく。
- 委 員 借入を返済していき、なおかつ現預金が1億円ずつ増える見込みになっているが、なぜこの  
ような増加見込みになったのか。
- 事 務 局 改革プランの収支計画で、入院収益が24年度以降増加することを見込んでいることから、  
それに伴って現預金も増加すると試算しているところである。
- 委 員 純損益、経常損益はそこまで増えてないが如何。
- 事 務 局 減価償却費が毎年2億円を超える額を計上しているため純損益等は増えていないで、内部留  
保していく。
- 会 長 入院収益が1億円以上増えるという見込みは大丈夫なのか。
- 事 務 局 今年3月に病院改革プランの改定版を策定し、この中期計画に基づいて試算したところであ  
る。この改革プランは24年度以降3ヵ年を見込んで改訂したところであり、この計画に沿っ  
て着実に経営改善、病院運営を行っていく。

- 委員 総務省によって公営企業の会計基準の改正がなされたが、退職金等の引当金が非常に大きいと思う。会計基準を替えれば損益計算に影響を与えると思うが、現時点で反映した見込みになっているのか。
- 事務局 今回の会計基準の改正は26年度からであり、この中期計画の中では26年度の4月に一括で退職給付引当金9.05億円を職員給与に計上することとしており、26年度は引当金の影響で損益はマイナスとなっている。
- 委員 平成17年度依頼の黒字で、非常に努力されたと思う。  
医業収益が10%増加している中、給与費が6%、材料費が4%と10%を下回っている。減価償却費は25%で建物の建替えでやむを得ないと思うが、経費については、7、8%で抑えるべきところ13%増加しているのは如何。  
医業外費用について、その他が21%増加しているのは如何。
- 事務局 経費の上昇については、業務委託が増加している。
- 事務局 業務委託には大型医療器械の保守も含まれるし、本来であれば人件費に相当する外来クリニックの委託費も含まれている。23年度の患者数の増加に伴いクリニックも増加したものである。また、CT管球の交換費用として1,000万円も含まれている。相対的に材料費が収益に比べて低く抑えられていると認識している。経費についても一般競争入札や業者との交渉を重ねて節約をしているところであるが、診療活動の増加に伴って経費も増加している。
- 事務局 医業外費用のその他内訳の一番大きな部分は繰延勘定償却費であり、過去の退職金を5年間で償却の費用化を行っているのとあわせ、今回建替えた建物の消費税を費用化している。
- 委員 特別利益はこれまで100万円程度で推移し、今後も同額を見込んでいるが、23年度は1,200万円となっているのは如何。
- 事務局 保険収益のうち、収益として計上漏れしていた分について過年度修正益として計上した。
- 委員 何年分計上漏れがあったのか。
- 事務局 2年分である。
- 委員 次年度以降、単年度500万円程度の修正益を計上しなくていいのか。
- 事務局 23年度について統計上の間違いを発見したところであり、以降は診療点数統計については厳密にしているので、24年度は発生していない。
- 委員 23年度の業務上の利益、経常利益は900万円程度と理解していいのか。
- 事務局 ご指摘のとおり。他にも3月になって社会保険の事業主負担として1,000万円程度の追加費用の支出の発生等、ギリギリ経常黒字を達成できたのが実情である。

## (2) 平成24年度病院事業の進捗状況について

- 会長 4月の診療報酬改正は好影響を与えているのか。
- 事務局 非常に好影響を与えている。特に手術の改定が大きく、DPCの適用についても外科・整形分野の点数が上がっている。
- 会長 手術件数如何。
- 事務局 先月(10月)は97件であった。
- 事業管理者 年々増えている。平成23年度が878件。昨年度よりも今年度は増加している。
- 会長 緩和ケア病棟の状況如何。
- 事務局 緩和ケア病棟は14床あって平均8~10床埋まっており、稼働率が高い。全床埋まっていることはないが、多いときで12床入られている。緩和ケア病棟に入られる方の在院日数が長くなることはなく、平均2、3週間程度である。

会長 ジェネリック医薬品の採用状況如何。

事務局 採用状況については、23年度中にかなりの数を採用しており、他の自治体病院と比較しても多く採用している。特段 24年度になってジェネリック医薬品の採用を促進しているということはない。

会長 平均在院日数が年々伸びているのが気になるが理由如何。

事務局 在院日数について 22年度が約 17 日、23年度が約 19 日であるが、24年度についての実績見込は 15～17 日程度になる見込み。新入院患者が 23年度は 230 名程度であったのに対し、24年度は 240 名を超える数字になる見込みであることから在院日数も下がる見込みである。特に整形外科の平均在院日数が短縮されているのが大きいと考えている。

会長 心臓カテーテルの状況如何。

事業管理者 心カテは医師一人では出来ず、大学からの応援があるときのみ実施しており、週 1，2 例、最低月 4 例はある。

会長 医師数の状況如何。

事務局 24年 5月に小児科及び泌尿器科の常勤医を採用して現状 23 名体制である。

会長 入院単価が 4 万円を超えたのは初めてでしょう。数年前は 3 万円を超えて喜んでいました。

委員 職員等の給与を減額していたと記憶しているが、24年度は如何。

事務局 23年度は 9 月末の前期だけで 4,150 万円の赤字を計上していたので、12 月期の賞与について 4,150 万円カットしたが、今期は 2,186 万円の黒字であることから、12 月期の賞与はカットせずにそのまま支給することとしている。

委員 (一般会計からの借入金) 1 億円ずつ返済するとなっているが、減価償却費と利益のキャッシュフローから返済すると認識してよろしいか。

委員 おっしゃるとおりである。

事務局 減価償却費は今後増加していく計画になっている。キャッシュ自体も増加した中から返済していく中期計画としている。

委員 減価償却費が増加する理由如何。

事務局 建物に係る減価償却費増加と大型医療機器の購入を計画しているため、それに係る減価償却費を計上している。

委員 収益が上がる計画であるので、もっと儲かっていい気がするが。

事務局 医療は人がいて初めて収益につながる労働集約型産業であり、収益を上げるには当然医療材料費、医薬品費は必要であるし、すぐ利益につなげることは難しい。

会長 産科の状況如何。

事務局 産科は昨年 7 月に病棟開棟して 10 月に 100 例を超え、現在延べ 110 例程度である。

会長 産科において問題になっているケースはないか。

事務局 特にない。山鹿市民からは山鹿市で産めるようになって良かったという声を頂いている。

会長 緊急帝王切開はないか。緊急時の体制は整っているのか。

事業管理者 数は少ない。今までで 3，4 例程度あったのみである。

委員 小児科医も 5 月から毎日診察して頂いているので安心である。

会長 審査の査定減が増加している理由如何。

事務局 算定誤りが増加していると考えている。救急医療管理加算で 45 件の約 130 万円、ハイケアユニット入院医療管理で 10 件の約 37 万円等が高額な減点となっているが、その他の査定減は前年並みと考えている。請求担当者の算定技術の向上により対応できる。

会長 地域医療支援病院の要件を達成できなかった場合はかなり大きな影響があるのか。

事務局 もし地域医療支援病院の指定が認定されない場合は約 2,000 万円のマイナスになるものと思われる。現在、県と協議、相談しているところである。

会長 地域医療支援病院の要件からかなり離れていたと思うが大丈夫なのか。

事務局 それについては病院を挙げて取り組んでいる。紹介率は相手病院の意向に寄るところがあるが、逆紹介率については当院で出来る話であるので、指定要件の紹介率 40%、逆紹介率 60%をクリアすべく病院を挙げて取り組んでいるところである。

会長 DMAT 病院に指定されたと聞いたが。

事務局 今年 3 月に県から指定を受けた。

委員 未収金の回収について、課題としては持っていると思うが、そこに人員や担当者を割けるかに懸かってくるかと思うが、今後の計画を見ると、人員の確保の目処が立っているのか。

事務局 具体的な職員については医事課職員が中心になるが、事務職全員で対応しなければならない。小額未収金を対象にするのではなく入院等の高額な未収金から対応を進めていきたい。未収金対策については司法書士法人、弁護士法人等の業者も考えられるが、手数料が収納額の 30%程度と大きくなることから検討していきたい。

委員 入院している方はお金を払わないと退院できないのではないかと。

事務局 原則はそのとおりであるが、どうしてもお金の工面が出来ないという方については、債務確認書や分割誓約書を交わしてご帰宅いただいているが、それについての履行がなされていない現状がある。

委員 生活が本当に苦しい方で、医療費も払えない方の場合であれば、職員が回収に回るのではなく、市から別の予算で賄うことはできないのか。弁護士の先生方等に回収を頼むことは取立てと同じ様なもの。

事務局 ご指摘のとおりであり、督促・回収に関しては職員が行く方がソフトだと考えている。

委員 ある程度、考えてやらねばとも思う。

委員 そういう意見は大事だと思う。未収金の回収・請求業務が適宜なされていなかった未収金もあると思うので、払ってもらえる方からはきちっと払ってもらおう気をつけたほうがいい。

事務局 支払っていただける機会を多く作る上で、コンビニ収納やクレジット会社を広げて簡単にお支払できる方策を検討している。

委員 24 年 9 月末で未収金はいくらぐらいあるのか。

事務局 年 300~400 万円程度ある。職員が自宅に向いて状況を判断することが大事と考える。

委員 状況により難しいと判断された場合は、市からの手当はどうにかできないか。

事務局 他の自治体でも未収金に対する手当はなされていない。

(傍聴席) 現状として国保税の滞納者も多い。医療費の助成をすることについては、公平性を鑑みても簡単には出来ない。現状難しい。

委員 本当に苦しく仕事もできない方についてはどうにかしてあげたいが。

委員 未収金の件で参考になるかわからないが、民生委員の方が家庭の状況を把握されている。個人情報保護の観点で難しいが、福祉課や包括支援センターと連携して民生委員を活用してはどうか。

委員 個々の状況把握は進んでいるのか。請求されなければ払わないので、回収できない。限られた人員で非常に大変で気の重い業務とは思いますが、国保税や医療費をまじめに払われている方もいらっしゃるのでは、把握をしていただきたい。

事務局 文書督促については毎月実施しているが、ご指摘の状況把握が第一であり、今後自宅に向いて確認することを鋭意進めていきたい。

会長 調査した結果を次回出せるか。  
事務局 かなり時間を要するが、次回の委員会には進捗状況について報告したい。  
会長 電子カルテについて来年7月に導入がずれ込むとあるが、状況如何。電子カルテについては3、4年前に決まりかけた経緯があった。  
事務局 電子カルテの導入には2、3億円かかり、維持保守経費もかかってくる。ご指摘のとおり3、4年前から検討されていたが、財政上、赤字経営の中では電子カルテを導入するのは難しいということであったが、24年度によりやく予算化できた。手続上ずれ込んでいるが、既存システムを何とかもたせて、来年7月頃に稼働したい。  
委員 電子カルテの導入は診療費の算定が短縮され、待ち時間短縮にもつながるのか。  
事務局 是非そういう形になるようにしていきたい。直接的な収益にはつながらなくても患者サービスにつながるよう導入を検討していきたい。  
会長 電子カルテは効率化につながる。

### (3) その他

委員 待ち時間アンケートの中に、「予約がなくても苦しいときはすぐ診てほしい」とあるが、救急車で来なくても状態が悪い方については、早く診ていただいているのか。  
事業管理者 患者の状態に応じて対応している。  
委員 以前売店があった場所に地域医療連携室やがん相談支援センターに変わっていた。こういった相談できる場所があることは患者としては安心して受診等ができて良い。  
また、広報誌に掲載されている医師の寄稿は、介護保険に関する情報まで掲載してあり、とてもいいことだと思う。山鹿市には緩和ケア病棟があるのはここだけか。緩和ケアの周知、紹介を積極的にしていただきたい。  
事務局 がん相談支援センターについては、ポスターを掲示して周知しているところである。  
山鹿市の緩和ケア病棟は山鹿市民医療センターのみ。  
会長 病院のホームページのリニューアルなど状況如何。ホームページの重要性が叫ばれているが。  
事務局 まだ不十分かもしれないが、緩和ケア病棟に関しても掲載している。  
委員 外来待ち時間等調査をされて、結果をフィードバックして改善につなげることはいいことだが、資料の作成に当たってはカラー印刷を避けて白黒印刷をする等、もっとコスト意識を持ったほうがよい。業績が改善しているがまだまだ道半ばである。  
会長 夜間・休日診療体制如何。救急車や急患には十分対応できているか。  
事業管理者 救急車で運ばれる方も年々増えているし、急患対応も厳しい状況もあるが、以前に比べると時間外の対応は改善されていると認識している。  
委員 最近の山鹿市民医療センターの評判は良くなって人気が出てきているので、その結果が収益につながっているのかもしれない。夜間救急で来た際は、支払わなければ帰ることができないと担当者に言われ、徹底しているなどと思った。

以上